

## 指導者 1

指導者は復帰の目的をなす期間を短縮させて導くものである。  
大きいことをしようとすれば、大きく信ずることを知り、大きく譲ることを知り、大きく飛び越えることを知らなければならない。

偉大な指導者はお金が一銭もなくとも、素晴らしいことを成し遂げる根性と天下を抱くことのできる無限大の心を所有した者である。

指導者は誰よりも苦労しよう、祭物になろう、哀れな事情の主人公となろうという心持ちと、実践が伴わなければならない。

## 指導者 2

不変の恩師の立場、不変の父母の立場、そして神の前に不変の忠臣となって、指導者となり得る。

指導者は涙なしでは指導することができない。  
押し迫ってくる民族の苦難と試練を知って、ここに備えることのできる苦痛を与え、試練を与えて鍛錬させるものが真なる指導者である。

指導者の不足を補い育てあげなさい。  
指導者を批評するものはカインの王である。  
指導者の欠点を包み、責任を持とうとするものは、いつの日かアベルの立場に立つようになる。

## 指導者 3

従っている人たちが願わないところにおいて命令する指導者は、滅びる。

指導者は利用物である。しかし絶対に滅びない。  
神様のため 3000 万の利用物となつてごらんなさい。  
そうしたら 3000 万は私の掌の中にいるだろう。

歴史的な指導者となるためには、歴史と時代の難事にぶつかっても押しだすことのできる者とならねばならない。  
そしてどんな不利な事件も良く利用することを知る者とならねばならない。  
英雄というのは自分の敵を友人にすることができる人である。

## 指導者 4

たくさん泣かなければ、多くを泣かすことができない。

他人を支配しようと思うものはまず自分自ら支配を受けてごらんなさい。

荒野時代を恐れる者はイスラエルではなく、滅びて、倒れてしまって荒い鳥のえじきになる者である。

## 指導者 5

今までは消耗戦であった。  
ゆえに自体内において力が抜けてことは事実である。しかし、神を基準として 3 年間耐えて進んでごらんなさい。  
天的な基盤が築かれるようになっている。

神が最後にこの地上でなさねばならないみ旨があるがゆえに、我々はこの地上で滅びる立場におかれても滅びずに残されてきたのである。

身体が目、耳、鼻、口などはみな、生まれる前にこの世にあるすべてのことを知って生まれたのである。人間自身がすべてを知り得ようか。それらすべてを知った存在は人間以上の全知なる存在であらざるを得ない。その存在が神である。

## 指導者 6

苦難を受けて踏みにじられても、ここに不変の民族性をもって天的主導権の一日を慕おう。韓国はむち打たれる場合には神様にすがって打たれなければならない。

先生はだれよりも私の家族を愛した人であった。にもかかわらず家族の前には復帰に関する原理のみ言を語ってあげることができなかった。中心が決定されるためには取りあえず四方性が整わなければならないことを知っているからである。

復帰摂理の原則を見てみなさい。どこまでも外部から内部へと訪ねてくるではないか。

まず他人と世界を自分の家族のように感じ、真実に通ずることができなければならない。

皆さんが心配する以前に、中心はそれより気を配ったがゆえに、中心の前では言うことがないだろう。そして皆さんの生命の問題に対しても、中心ほど考えた人はいない。

## 指導者 7

一番信じ難い層の人(20代～30代)を一番信じて摂理されねばならない神の心情を慰めなければならない。

創造は一つの目的と一つの動機から始まった。

ゆえに散った世界の再編成も一つの動機もとに再び集まることによって始まる。

神は、宇宙的な大きな幸福を与えようとなさるのに、人間は目先の微々たる幸福のみ求めれているので、与えようとしていた大きな恵みがかえって大きな災いとして我々に与えられた。

## 指導者 8

地上に住んでいる数多くの人間たちは、この時間、自分も知らずに、より良いものを地上に住んでいる人間がそうであるように、地上に対している天も同じである。

先生は今日まで食口たちに対して悪なる心を抱いたことがなかった。  
倒れれば世話をして葬式をやってあげたい心情である。  
このように他人を大切にしてい愛してあげる立場で真心を尽くせば悪なる人の心も転換してくる。

先生は内的な基準から外的な基準へと向かうのであり、皆さんは外的な基準から内的な基準へと訪ねてくるのである。ゆえに先生と皆さんが復帰の一点で会って夜通しで事情を分かちあうそのような誠をもたなければならない。

## 指導者 9

先生は歴史的な悲しみを払いのけてきたので、掘り下げていけば神にまで悲しみが連絡され、これを持ちだすとき、この民族と世界人類が痛哭せざるを得ないのである。

神学、哲学を研究する専門家よりも神の心情を研究する専門家が歴史と世界を支配するだろう。

神の心情をアダムの墮落以後 4000 年ぶりに知ったのがイエス様であり、神がアダムを失ったのち、4000 年ぶりに探し求めた実体であった。

しかし、今日では、イエス様が神の心情を知ったほど、イエス様の心情を理解する聖徒がいなのが嘆かわしい。

我々は聞いて見たことでも行うことが難しい。神が無言の苦労を 6000 年間してこられたその心情はいかばかりであろうか。

国がなくては入籍することはできない。主権は神の主権を代行する場である。

## 指導者 10

木が大きくなればなるほど根は地下に深く入っていく。  
根の浅い木は枯れるか、あるいは風が強いとき、引き抜かれてしまうだろう。  
指導者とは根のような者である。

勝利的主管者となりなさい。勝利的主管者となるためには、信仰の分野と愛の分野で勝利者であることが認められなければならない。

指導者は天運に合わせて行かなければならない。  
天運を左右する主人公が神様である。

## 指導者 11

責任者になろうとすれば

- ①立つべき立場を環境を主管しなければならない。
- ②み旨の目的に向かっていく立場において先頭に立たねばならない。
- ③数においては負けても、全体を思うことにおいては勝たねばならない。
- ④食べる前にも眠る前にも、彼らを思い祈ってあげなければならない。
- ⑤彼らが私のためにいるのではなく、私が彼らのためにいると思わねばならない。
- ⑥神が与えてくださったものの上に私がプラスさせようという心がなければならない。

イエス様が復活なさったのちに弟子たちを訪ねられたのは、彼らと立てた誓いを彼らは裏切っても、天は裏切ることができなかったので訪ねていったのである。誓いが果たされるまで、責任者は責任を放棄することができない。

荒野時代のイスラエル民族は、モーセを批判し、族長を批判し、責任を持ったものを批判したので滅亡した。この群れを、モーセが再び押し出し、打たねばならなかった。そのままほっておけば死ぬので、刀を取ってでも押し出さねばならなかったのである。

## 指導者 12

み言だけではいけない。汗を流す人が、人を動かす。

聖人は、神様を紹介し、天の道を植えつけるために苦勞する者である。

人を嫌う人は、指導者になり得ない。

## 指導者 13

環境に引張られていくのではなく、私が環境を引張っていかなければならない。

自分自身を一度振り返ってみよ。私は後退しているのか、それとも前進しているのか。

先生は、永遠に現役であると思う。私が 80 の老客となったとしても、あなた方に引っ張られていくのではなく、杖をついても堂々とみ旨の旗手となって先頭に立つことを、神様の前に誓う先生である。

## 指導者 14

指導者とは、一刀両断する勇断の性格をもっていなければならない。彼は、大きいときには、泰山(注:高く大きい山)も見透かしてみなければならないし、また小さいときには、髪の毛一本でもふいて調べるほどでなければならないし、また厳しいときには、自分の骨肉も顧みないで、それでいて慈愛を施す場合には、虫も踏み殺せない人とならねばならない。

大きな恵みを食いつぶさないで、小さな恵みを育てることを知らねばならない。

天と地の前に、威信と体面をもてる面目を整えたか。

## 指導者 15

千万人が、喜んで用いることのできる材料となりなさい。

来なければ、来るようにしなければならない。

小さい地域一つも責任をもてない人が、どうして天と地に責任をもつことができようか。

## 指導者 16

敗残兵は、再び精鋭部隊には立たせられない。

指導者は、涙が涸れてはならない。

針になることができなければ、せめて糸にでもなろう。

## 指導者 17

真の主人になろうとすれば、  
第一に、神様中心の所有観念が確立されなければならない、  
第二は、責任観念が強くなければならない、  
第三は、他人のものではなく、私のもので祭祀(さいし)を神様の前に捧げなければならない。

どうせ生きるなら、素晴らしく生き、素晴らしく闘い、素晴らしく生を終えよう。

神様は、二人の中の一人が必要である。第一は、指導者が呼んで相談できる人であり、第二は、指導者が命令できる人である。

## 指導者 18

引っ張られていく人とならず、歴史的に公的責任を持っていた数多くの人たちを呼び起こす動因となり、引っ張る人となりなさい。

接待を受けても常習化されてはならない。常に、そのあとには涙で祈らなければならない。

我々指導者は、神様のために気が狂ったと言える伝統を立てなければならない。

## 指導者 19

指導者は、日が暮れて夜が早く来ることが怨讐であるように感じるほどに、昼夜働かなければならない。

怨讐を打つ前に、まず愛しなさい。

高く貴重な立場にいればいるほど責任を感じ、未来に希望をつなぎなさい。

## 指導者 20

先駆者が成功すれば、従うものも勝利するのである。

先生の青春時代を考えてみなさい。死を踏み越えてこそ生命の価値を感じることができる。

祭司長は祭物の代わりであるために、所有観念があってはならない。



## 指導者 21

知ってみると多くの面において「あ！足りないな」と言う、これが良い賜(たまもの)である。

指導者とは、人生の行くべき正道を発見した人である。神様が、六千年の苦勞のふろしき包みを負わせ、それを一日のうちにやり遂げたとしても、神様がまだ残っていると言って命令できる人である。

モーセは豪華なパロ宮中で生活をしたが、これが何だ！といって民族をより思ったがゆえに、民族的な指導者になり得た。

## 指導者 22

百人がやることをやらねばならないし、百人がやる仕事の先頭に立たねばならない。

国の主権者は心のように、民は体のようにでなければならない。国には全体を統治する主体性が、個人には個体を統治する主体性がなければならない。

歴史を無視する人は、現実の責任者になり得ない。現実の責任者になりたい人は、歴史の相続者となりなさい。イエス様は死によって過去を相続し、復活によって未来を收拾した。

## 指導者 23

聖日礼拝の3日前から準備しながら、その日、万民のため祝福を与えるよう精誠をつくさねばならない。

責任者とは幸福なものではなく、極めて悲惨な者である。この世とぶつかり、新しい歴史的伝統を立てなければならない。

開拓者は、常に先頭にいるが故に寂しいのである。二人で行く道ではないからである。資料を収集して道をつくっていくのである。ゆえに開拓者には歴史がなく、因縁がない。

## 指導者 24

責任者として知らねばならないことは、子供の心である。

母親が病になっても子供に乳を与えなければならないのと同様に、指導者には疲れとか自分の事情というものはない。

人に接するとき、笑顔で対しなさい。それは自然な防御となるのである。

希望的な人は、常に建設的だ。